



助長

「助長（じょちょう）」という言葉は、現代日本でもよく使われる言葉で、「力を貸して成長・発展を助ける」という意味で使われているのをよく見かけます。しかし、その使い方に触れるたびに、違和感を覚えています。

現在はそのような意味で使われることも容認されているとは言え、本来の意味は、そのような良い意味ではありません。「助けることでかえってダメにする」という意味の言葉です。

言葉が時代と共に変化していくことについては、以前の校長室だより（2022年7月1日号「すさまじきもの」）でも触れたように、やむを得ない面もありますが、この場合は、漢字2文字からだけでは「成長を助ける」という意味しか伝わらず、そのための誤解から始まった誤用ではないかと思っています。

その典拠は、孟子の言行をまとめた書である『孟子』の中にあります。（孟子は、儒教では孔子に次いで重要な人物と言われており、性善説を唱え、仁義による王道政治を理想とした、紀元前中国・春秋戦国時代の儒学者です。）

「助長」は『孟子』の中にある「苗の成長を早めようと引っ張った人の話」からできた故事成語で、その内容は、以下の通りです。

宋人有閔其苗之不長而揠之者。

宋の国の人で畑の苗が成長しないのを心配してこれを上に引っ張る者がいた。

芒芒然歸、謂其人曰、今日病矣。

疲れて茫然として家に帰り、家の人にこう言った。「今日は疲れた。」

予助苗長矣。

「苗を引っ張って成長を助けてやったんだ。」

其子趨而往視之、苗則槁矣。

その人の子供が走って苗を見に行くと、苗は枯れてしまっていた。

天下不助苗長者寡矣。

世のなかにはこのように、無理に引っ張って成長させようとする者が多い。

早く成長させたくて無理に引っ張ってしまい、苗を枯らしてしまったのです。

「成果を焦って、助けになればと思って行ったことが、間違ったやり方であったために、結果がかえって悪くなってしまう」というのが、故事成語としての本来の意味です。

教職員も保護者も、子供たちを「助長」してしまっていることはないでしょうか？お互いに自分自身に問いかけながら、真に子供たちの成長を助け、支えることができるよう、連携協力して参りましょう。

..... 切り取り線

子供たちのための、意見・提案・要望・校長に知らせたいこと など

2022年11月25日（ ）年（ ）組 児童氏名

※メールでも随時受け付けております。kosaki-k@sendai-c.ed.jp（校長直通）